

地域で課題解決型まちづくりにチャレンジしてみませんか!!



犬山市 市民部 地域安全課

1



そもそも、
今なぜ『課題解決型まちづくり』に
取り組むの？

3

はじめに

- 犬山市では、地域の多様な人々が地域のことについて語り合い、行動していくための仕組みとして、「コミュニティ推進協議会」の形成を進めてきました。
- 地域住民の交流・ふれあいの場として、各種事業が実施されていますが、時代の変化に伴って、地縁組織(コミュニティ推進協議会、町内会等)の活動は、**交流・ふれあい中心の活動から、課題解決型事業中心の運営へと転換が求められています。**



2

今なぜ、「課題解決型まちづくり」に取り組む必要があるのか？

- 高度経済成長の中、公共サービスは行政が一手に担うことが当たり前とされてきました。しかし、社会が多様化するなか、また財政事情が厳しさを増すにつれて、行政を含めた**社会全体で支え合う**ことが求められています。
- 最近、全国的にも、地域の良いところに磨きを掛け、また気になるところを改善していくことで、自分たちが暮らす地域を自らの力で住みやすくしていこうとする取組がみられます。 =「課題解決型まちづくり」

4

今なぜ、「課題解決型まちづくり」に 取り組む必要があるのか？

- 地域の住民と行政が一緒になって知恵を出し、汗をかくことで、地域の実情にあったきめ細やかな地域サービスを展開することが必要となっています。
- そこで、市では、こうした地域が自ら課題解決に取り組む、言わば「課題解決型まちづくり」を推進し、その普及を図っていきたいと考えています。

5



『わがまちが直面する地域の課題』 とは？

『わがまちが直面する地域課題』には、
どのようなことがありますか？
我が事として考えてみてください。

7

地域が抱える課題 たとえば・・・



描く未来は自分たちで！みんなで協力しながら、
地域の良いところに磨きを掛け、
気になるところを改善していきましょう

6

まずは「課題解決の学び」を 積み重ねましょう！

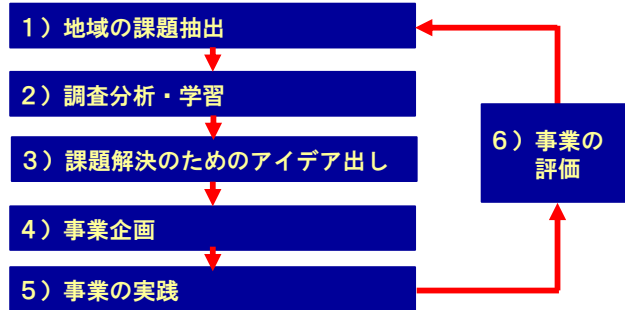
- 地域で地域の課題に取り組むには、ひとつひとつ経験を積み重ねていく必要があります。
 - ・地域それぞれの課題を見つける、分析する方法
 - ・解決されたイメージをつかむ、デザインする
 - ・関係者と連携する、理解し合う など

これらは経験の中から学び、コミュニティの力を高めていく
必要があります。

8

課題解決事業を企画・実施するための基本プロセス

まずは学習し、『とにかくやってみる』
(トライ&エラー)



9

平成29年度 地域の課題解決モデル事業

- 平成29年度、「課題解決の学び」に関わるモデル事業として、楽田地区において「地域の課題解決モデル事業」に取り組みました。



10

モデル地区の紹介 ～楽田地区の地域資源～

☆楽田コミュニティ推進協議会20年余の活動

- 20年かけて作り上げてきた人と人とのつながり、関係団体とのネットワーク
- 8部会が繰り広げる多彩な地域活動

☆楽田ふれあいセンター(拠点施設)

- ワークショップなどにより住民主導で建設
- コミュニティ推進協議会が施設を管理・運営
- 24時間365日使用可能な施設

11

モデル地区の紹介 ～楽田地区の地域資源～



ふれあい夏まつり(8月)



やどかり塾(12月)



12

モデル事業の紹介

地域の子どもや高齢者をはじめとする
一人暮らし世帯の欠食、孤食問題の解決に向けて

『子どもと高齢者』
をテーマに話し合いを
重ねました。

そして、お試事業として
『楽田村、わんだふる広場』
を開催しました。



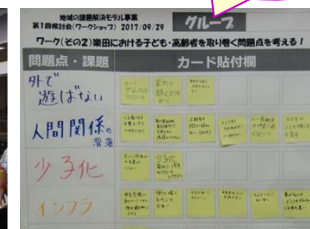
13

モデル事業の紹介 1) 地域の課題抽出

☆ 子どもや高齢者を取り巻く、地域の
問題点や課題を抽出しよう！

- 問題点・課題をフセンに書いて
出し合い、みんなで意見交換
しました。

カードに書いた意
見をグループ化し
て整理しました。



14

モデル事業の紹介 1) 地域の課題抽出



《話し合いのルール》

- ★住民同士の話し合いに肩書き、立場は関係ありません。「対等の個人」としてアイデアを出し合います。
- ★お茶やお菓子などを用意し、リラックスした雰囲気の会場としましょう。
- ★なるべく多世代、男女均等な参加を得るために、PTAや地域の子ども会など他団体に参加を呼びかけましょう！

15

モデル事業の紹介 1) 地域の課題抽出

《円滑に話し合いを進めるポイント》

- ★ 傾聴！ 相手の話は「しっかり聴く」が基本です。
- ★ 話は手短かに。長話には自ら「イエローカード」を。
- ★ 「…したい」、「…しよう」、ポジティブ発言大歓迎。
- ★ 他人の意見を否定しないで。「ダメ」はNGワード。
- ★ 手も動かして、カードやシートに記録を残す。

16

モデル事業の紹介 1) 地域の課題抽出

【子どもを取り巻く問題】

《子ども同士、子どもと大人のつながり》

1. 子どもの数が減った。近くに同世代の友達がいらない。少子化。
2. 人とつきあうのが苦手な子供たちが増えている。
3. 地域のつながりが希薄化している。☆子ども達と地域のつながり

《子どもの遊び》

4. 子どもたちが外で遊ばなくなった。
5. 地域に遊び場がない。安全に遊ぶ場所が少ない。
6. 交通事故の発生が心配である。安全に対する意識が低い子ども

《親と子の関係、家庭の余裕》

7. 親子の会話が少なくなっている。
8. 親が忙しく余裕がない。
9. 共働き家族の子どもの居場所が心配である。

《その他・子どもを取り巻く問題》

10. 子どもの学力、体力が低下している。
11. 子育て世代でも買い物に苦労している。
12. 商店が少ない。子どもと外食できる場が少ない。

17

モデル事業の紹介 1) 地域の課題抽出

【高齢者を取り巻く問題】

《超高齢化》

13. 高齢者が多い、高齢者の一人暮らしが増えている。
☆超高齢化10年後が心配。

《高齢者の孤立、ひきこもり》

14. 他人のお世話にはなりたくないという高齢者。
☆近所との関わり避ける。手伝おうにも断られる。

《高齢者の暮らしの中の困りごと》

15. 高齢者が買い物に苦労している。車がないとどこにも行けない。
☆バス停も遠い。バスが通ってない。

18

モデル事業の紹介 2) 調査分析・学習

☆ 友人・知人からの聞き取り調査を実施しました。

☆ 市が実施したアンケート調査の結果を学びました。

☆ 有識者の講演記録のエッセンスを学びました。

- テーマは『子どもの貧困問題とその対策』でした。

19

モデル事業の紹介 2) 調査分析・学習

☆ 友人・知人からの聞き取り調査

次回に向けて

★聞き取り調査のお願い

一人でも多くの方々に今回の取組を知っていただくために、また本日の協議内容を確認するために、次回までに、聞き取り調査をお願いします。個人作業で、「聞き取り調査宣言カード」に記載してください。

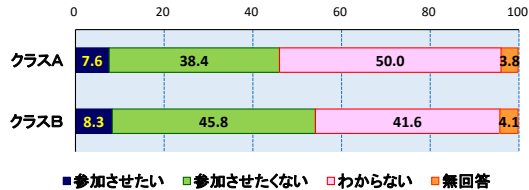
私は に
について聞いてきます。

20

モデル事業の紹介 2) 調査分析・学習

☆ 市が実施したアンケート調査の結果

- 市が実施した『子どもの貧困』についてのアンケート
子ども食堂に子どもを参加させたいか？



※「愛知子ども調査」平成28年12月実施
※ クラスA・Bの2つの調査結果

21

モデル事業の紹介 2) 調査分析・学習

《調査分析・学習にあたって》

- ★ 事前の調査や学習を通じて、地域全体として、社会としてどうなのか、**地域住民の思いを客観的にデータとして把握**しましょう。
- ★ 客観的な分析、学習をすることで、説得力のある事業提案ができます。**多くの人の共感を得やすくなります。**

《ポイント》

- ★ 数値で他地区と比較する、**経年的な変化をみる。**
- ★ 住民の意向を把握する。**(アンケート、インタビュー等)**
- ★ 有識者、**専門家の考え方を学ぶ。**

23

モデル事業の紹介 2) 調査分析・学習

- ☆ 有識者の講演記録のエッセンスを学びました。
● テーマは『子どもの貧困問題とその対策』でした。

子ども・若者支援の視点

1. だれでも利用できる場
2. 定期的に長く続けること
3. おとなが楽しんでいること
4. いつでも話を聞ける状態を保つこと
-「ゆるさ」と「特別にあなたに寄り添う」メッセージ

→「意味ある大人」と出会い、対話によって自己肯定感を得られるかどうか

※ 東洋大学社会学部教授 森田明美教授(東洋大学社会貢献センター長)講演より 22

モデル事業の紹介

3) 課題解決のためのアイデア出し

- ☆ 子どもや高齢者を取り巻く問題点・課題を再確認しつつ、地域やご近所のできる解決策について意見交換しました。



24

モデル事業の紹介

3) 課題解決のためのアイデア出し

《地域・ご近所のできることを考えました!》

| 子ども | 高齢者 |
|---|---|
| ◇地域で子供をみるシステムをつくる。 | ◇となり近所で高齢者を見守る。 |
| ◇世代を超えた輪。 (子どもと高齢者の接点) | ◇地域で支えあう仕組み (少しのお金で頼める) ・ちょこっとお礼(100円) の支え合い |
| ◇先生の実情をもっと知る。 (先生と仲良しに。茶話会) | ◇困った人と助けたい人をつなぐ コーディネーター。 |
| ◇子どもと向き合う (声掛け、子どもの話を聴く) | ◇家からの外出を手伝う足の確保。 |
| ◇戸別訪問できる仕組みをつくりたい。 | ◇外出したくなる、利用したくなる取り組み |
| ◇需要のリサーチ 実情を知る! ・子ども・お母さんの集まりの中で今回のワークを。 | ◇弱者の情報を集める。 (子どもも高齢者も) |

25

モデル事業の紹介 4) 事業企画

- ☆『(仮称)ふれあい食堂』に対する思い・期待を話し合い、考え方を共有しました。
- ☆ 事前に作成した「たたき台」を参考に、より良い取組とするための意見を出し合いました。



27

モデル事業の紹介

3) 課題解決のためのアイデア出し

《アイデア出しの話し合いにあたって》

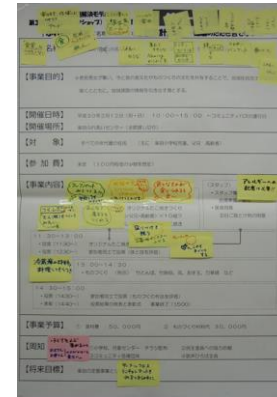
- ★ 参加者が自由にアイデアを出し合う話し合い(ブレインストーミング)を効果的に進めるために、次のポイントを意識して取り組みましょう。

《ポイント》

- ★ 参加者が対等の立場で、自由に発言する。
- ★ 唐突なアイデア、奇抜なアイデアも遠慮なく出し合う。
- ★ まずは質より量。多くのアイデアを出す。
- ★ 他人のアイデアをヒントにアイデアを発展させる。

26

モデル事業の紹介 4) 事業企画



- 事前に作成したたたき台を企画書として各グループに配布し、意見をフセンで出し合って意見交換をしました。

28

モデル事業の紹介 5) 事業の実践

☆ お試し事業 楽田村、わんだふる広場



を開催しました。

- ☆ 世代を超えたランチ・もてなしごっこ(たこ焼き、蒸しパンづくり)、ものづくり体験で楽しむ広場です。
- ☆ よろず相談(健康相談、介護相談、学習相談)も同時開催しました。

29

モデル事業の紹介 5) 事業の実践

楽田村、わんだふる広場

平成30年2月12日(祝・月)に開催しました。のべ200人の楽田住民が広場に集いました。

- 笑顔と会話がたくさんあった。
- 子どもからお年寄りまで、多世代が参加してくれた。
- はじめてふれあいセンターを訪れたお年寄りもいた。

《お試し事業のポイント》

- ★ 当日を振り返るための写真記録やアンケートをとる。
- ★ まずはテストとして、内容を広げすぎずに実施してみる。

31

モデル事業の紹介 5) 事業の実践



子どもたちのたこ焼きづくり

地域のおとなの蒸しパンづくり

おいしい蒸しパンはどれだ

むかしの遊び体験

30

モデル事業の紹介 6) 事業の評価

- ☆ お試し事業を振り返り、
 - ・上手くいったこと(継続)
 - ・問題だと思ったこと(改善)について意見交換しました。

- ☆ 次年度以降の事業継続に向けた作戦会議となりました。



32

モデル事業の紹介 6) 事業の評価

次年度以降への事業の「継続」「定着」に向けて、意見が出ました。



- 地域の人との団らんから学び合っていこう。
- はじめは、こじんまりとした形で継続していく。
- 子ども・高齢者との対話にもっと時間を割いていこう。

《ポイント》

- ★ この事業の継続が当初に掲げた課題解決に結びつくのか、振り返る。
- ★ 事業を継続することが可能か、年間事業全体を見直す。

33

地域活動を円滑に進めるポイント

☆平成29年度モデル地区(楽田地区コミュニティ推進協議会)の経験から

楽田地区コミュニティ推進協議会には8つの部会があります。様々な地域活動を通じて、老若男女、様々な立場の人々が協議会運営に参加しています。

モデル事業の実施にあたっては、予めより地域課題としてクローズアップされてきた、子どもの貧困の問題、高齢の孤立化の問題をテーマに取り上げることにしました。

34

地域活動を円滑に進めるポイント

楽田地区の特徴

◎拠点の活用・日頃のつながり

楽田コミュニティが発足して20年余り。夏祭り、やどかり塾、クリスマス会をはじめとした数多くのイベントをふれあいセンターを拠点に開催。

また、同好会・教室もさかんで、日頃から地区住民が顔を合わせる機会が多いことが特徴。地域の人同士で信頼関係が築かれている。

35

地域活動を円滑に進めるポイント

話し合い

◎声かけ

単に参加者を募集するのみでなく、議論に参加してほしい方々に直接声かけにまわり、毎回20名程度の方々が参加。

◎学校との連携

名古屋経済大学の地域連携センターを通して、学生さんたちも参加。若い世代の参加で、議論が活発に。

36

地域活動を円滑に進めるポイント

話し合い

◎ワークショップ

小グループでの意見交換(ワークショップ)を基本に話し合いを進め、意見交換を楽しく効率的に。

◎事前準備

お試し事業の企画原案を、担当部会で協議のたき台として事前に作成・準備することで、企画を考えるワークショップでは効率的な話し合いが可能に。

37

地域活動を円滑に進めるポイント

話し合い

◎調査・学習

学習のための資料として、行政が持っている情報(アンケート結果)や有識者が作成した資料等を活用。

客観的な調査結果や、有識者の見解を参考とすることで、確信を持って事業に取り組むことが可能に。

地域活動を円滑に進めるポイント

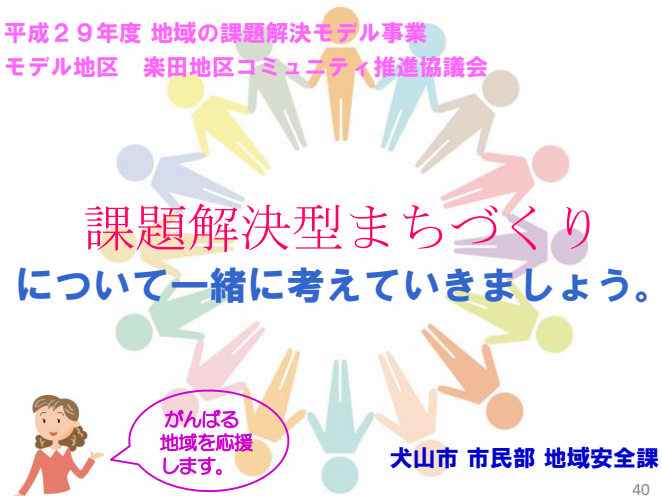
お試し事業

◎他団体の取り込み

日頃からお付き合いのある様々な団体からの協力を得て、それぞれの強みを発揮していただくことで、主催スタッフの負担の大幅な軽減を図ることが可能に。

39

平成29年度 地域の課題解決モデル事業
モデル地区 楽田地区コミュニティ推進協議会



40